創刊のことば

本学は昨年の四月に発足したばかりである。

創設期であるだけにすべてのことを軌道にのせなければならない、ことに規模の小さい短期大学であるために、専任教職員のひとりひとりにかかる負担はきわめて大きい。

そのなかにあって、研究の態度を堅持してその成果を発表するのは大変であったろう。

同僚の諸子に敬意を表する。

この紀要を編さんするわたしたちの気持はこうであった。ゲーテが若いエッケルマンに語ったことばを借りて表現する。

「大作をしないように気をつけたまえ。もっともすぐれた人々でも、大作にはくるしむ。大きい作をもくろんでいるとほかになにも手がつかない。……いつかはゴールに達するような歩き方ではだめだ。一歩一歩がゴールであり、一歩が一歩としての価値をもたなくてはならない。」（手塚富雄氏訳）

この紀要がはたして大方の批判にたえるものであるか恐れるものであるが、これを一つの踏み台としてさらに高くのぼっていきたいと念じている。

奥島敬一